

事業所名 ボーダレスアートスペースHAPつるみ

支援プログラム（参考様式）

作成日

2024年

12月

25日

法人（事業所）理念	療育＝アートという考えのもと、社会に出るまでの大切な時期、学校通学中の子どもたちに対して、放課後や夏休み等、アートを通じて一人一人の個性に潜む可能性をひきだすお手伝いをします。そのことは、生活能力、社会への適応能力つながることでしょう。そしてアートアソシエイション（アートする場）として子どもの居場所づくりをしていくとともに、アート活動を通じた社会とのコミュニケーションの可能性を探ります。							
支援方針	一人ひとりに合わせて、アート体験を通じ表現力を培い、生活の質の向上に繋げる支援をする。以上の方針のもとに、個別支援計画の作成、モニタリングを行うとともに、家族と連携を図り、支援の充実を図っていきます。							
営業時間	授業終了後 学校休業日	14時00分 12時00分	から 17時00分 18時00分	分まで	送迎実施の有無	あり	なし	※広島市中区全域・南区の一部 ※学校休業日の送迎なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	○定期的、規則的な通所を通じて生活のリズムを安定させる支援をします。 ○手洗い、体調確認を通じて、衛生的・健康的に活動できるよう見守り・声掛け支援を行います。 ○自分で作った作品や自分で使う作品素材の整理を児童指導員と一緒に考えながら行い、整理整頓が自然に身につくように支援します。						
	運動・感覚	○公園などの屋外活動で遊びを通じて、身体機能・感覚機能の発達を図ります。 ○屋内でも体を動かせるスペースをとって、本人の希望に応じてダンスやトランポリン等体を動かす活動を支援します。 ○地域の冒険遊び場 もとまち自遊ひろばに参加し、自然を五感で感じ、また体を動かして活動する。 ○えのぐ、鉛筆、粘土、プラ板、工作用紙、ダンボール、糸、毛糸等、さまざまな素材に触れて、作品を制作し、素材の感触に触れるとともに、それを作品に仕上げる上で必要な感覚を養っていきます。						
	認知・行動	○美術鑑賞などに出かけて様々なアートに触れ、感性を豊かにする支援をする。 ○ワークショップなどに参加することで、表現力の向上を支援する。 ○好きなものを作品として制作することで、イメージを形にするために必要な認知能力を養います。						
	言語 コミュニケーション	○グループで制作することでルールを学び、コミュニケーション能力を高める支援をします。 ○興味のあることについての会話を通じて、自分の好きなことや自分を表現することを支援します。						
	人間関係 社会性	○自由に自分の作りたいものを制作することで「自分を表現する」ことを経験して、それを展示することで、社会と自分の表現のつながりを意識するきっかけを作ります。 ○共通の趣味を持つ子ども同士の橋渡しを行い人間関係形成のための支援をします。 ○グループでの制作・遊びを通じて、ほかの子とかかわる中で、必要に応じて児童指導員が間に入って必要なアドバイスを行い、円滑な関係づくりを支援します。						
家族支援	○お子さまに関する相談を随時受け付けます。必要に応じて学校や相談支援事業所、病院、療育センターなど関係機関とも連携を取りながらサポートしていきます。	移行支援	○ライフステージの移行に向けて家庭や学校と連携を行い、それぞれの場での様子を共有する。 ○ライフステージの移行後も制作活動・表現活動ができるようアドバイスする。					
地域支援・地域連携	○地域に開かれた展覧会を開催し、子どもたちの作品が地域の人々の目に触れる機会を作るとともに、その様子を子どもたちにも見せ、自分の表現が受け入れられる機会を設けます。 ○子ども食堂を開催して、地域の人と交流する機会を設けます。		職員の質の向上	○スタッフ面談の実施（年1回） ○適宜、内部研修を実施する。 ○定期的なミーティングの開催。 ○外部研修への参加。				
主な行事等	HAP展（HAPの子どもたち、スタッフの作品を展示）、こども食堂、ワークショップ、遠足、もとまち自遊ひろばへの参加など。							